

9番 FW
北川夏奈



4 DF
中川 綾乃



1 GK
鶴飼真也子



監督
田中悦博



10 DF
田中悠杏



5 MF
東 未幸



2 DF
横山 夢花



11番 MF
高尾 葛利



8 MF
山本 華乃



3番 MF
西澤 瑞記



ナンバーノンフィクション
97
忠鉢信一 = 文
Text by Shinichi Chubachi
佐野美樹 = 写真
Photographs by Miki Sano

ラックガールズ!
女子小学生最強チームの成長物語

今年1月、エリートが集まる全日本少年フットサル大会に史上初めて女子だけで出場し、脚光を浴びた丸岡RUCKガールズ。チームの雰囲気は独特だ。目指すは目先の勝利ではなく、みんなで話し合い、みんなで経験を共有し、ともに伸びることに田中先生と卒業を控えた8年生8人の、成長の軌跡を描く。

そ

ただが瞬間、スローモーションの世界に突如、北川が放った低いシュートは、飛び出したGKの手には届かなかった。そのままゴールの方へ転がり続けた。先回りしてキャプテンの足裏からボールを奪った。前5分、電光石火が「0-1」から「1-1」に変わった。

東京・駒沢体育館を主会場として開かれた小学生のフットサル大会。丸岡RUCKガールズは、日本のサッカー史上初めて男子の全日本大会に勝ち上がった。女子だけのチーム。鹿角島南サッカースポーツ少年団から奪った1点は、1次ラウンド2試合目にして初ゴールだった。民放3局のテレビ録と雑誌や新聞の記事もあつた。

初ゴールから2分後の前半7分、再び鹿角島南にリードを許す。GK鶴飼のゴールスローが直接相手に渡り、

ラックガールズ! 女子小学生最強チームの成長物語

「歴史を刻んだ日」

【読者質問】監督、練習相手、家族の思い、期待、福井県の代表、これだけの思いを背負って1勝してきました。みんなその後、なにをしたらいいのかな。

【監督】「いいえ、みんながそれぞれにできること、それぞれにやるべきことがある。みんながそれぞれの役割をしっかりと果たして、チームとして勝てるように頑張る。みんながそれぞれの役割をしっかりと果たして、チームとして勝てるように頑張る。」

【読者質問】監督、練習相手、家族の思い、期待、福井県の代表、これだけの思いを背負って1勝してきました。みんなその後、なにをしたらいいのかな。

【監督】「いいえ、みんながそれぞれにできること、それぞれにやるべきことがある。みんながそれぞれの役割をしっかりと果たして、チームとして勝てるように頑張る。みんながそれぞれの役割をしっかりと果たして、チームとして勝てるように頑張る。」

【読者質問】監督、練習相手、家族の思い、期待、福井県の代表、これだけの思いを背負って1勝してきました。みんなその後、なにをしたらいいのかな。

【監督】「いいえ、みんながそれぞれにできること、それぞれにやるべきことがある。みんながそれぞれの役割をしっかりと果たして、チームとして勝てるように頑張る。みんながそれぞれの役割をしっかりと果たして、チームとして勝てるように頑張る。」

【読者質問】監督、練習相手、家族の思い、期待、福井県の代表、これだけの思いを背負って1勝してきました。みんなその後、なにをしたらいいのかな。

【監督】「いいえ、みんながそれぞれにできること、それぞれにやるべきことがある。みんながそれぞれの役割をしっかりと果たして、チームとして勝てるように頑張る。みんながそれぞれの役割をしっかりと果たして、チームとして勝てるように頑張る。」



練習試合でのハーフタイム。輪になって前半の反省と後半に向けて修正すべきことを話し合う。選手たちだけじゃなく監督もがRUCK流だ

【読者質問】監督、練習相手、家族の思い、期待、福井県の代表、これだけの思いを背負って1勝してきました。みんなその後、なにをしたらいいのかな。

【監督】「いいえ、みんながそれぞれにできること、それぞれにやるべきことがある。みんながそれぞれの役割をしっかりと果たして、チームとして勝てるように頑張る。みんながそれぞれの役割をしっかりと果たして、チームとして勝てるように頑張る。」

【読者質問】監督、練習相手、家族の思い、期待、福井県の代表、これだけの思いを背負って1勝してきました。みんなその後、なにをしたらいいのかな。

【監督】「いいえ、みんながそれぞれにできること、それぞれにやるべきことがある。みんながそれぞれの役割をしっかりと果たして、チームとして勝てるように頑張る。みんながそれぞれの役割をしっかりと果たして、チームとして勝てるように頑張る。」

ナンバーノンフィクション **97**

【読者質問】監督、練習相手、家族の思い、期待、福井県の代表、これだけの思いを背負って1勝してきました。みんなその後、なにをしたらいいのかな。

【監督】「いいえ、みんながそれぞれにできること、それぞれにやるべきことがある。みんながそれぞれの役割をしっかりと果たして、チームとして勝てるように頑張る。みんながそれぞれの役割をしっかりと果たして、チームとして勝てるように頑張る。」

【読者質問】監督、練習相手、家族の思い、期待、福井県の代表、これだけの思いを背負って1勝してきました。みんなその後、なにをしたらいいのかな。

【監督】「いいえ、みんながそれぞれにできること、それぞれにやるべきことがある。みんながそれぞれの役割をしっかりと果たして、チームとして勝てるように頑張る。みんながそれぞれの役割をしっかりと果たして、チームとして勝てるように頑張る。」

【読者質問】監督、練習相手、家族の思い、期待、福井県の代表、これだけの思いを背負って1勝してきました。みんなその後、なにをしたらいいのかな。

【監督】「いいえ、みんながそれぞれにできること、それぞれにやるべきことがある。みんながそれぞれの役割をしっかりと果たして、チームとして勝てるように頑張る。みんながそれぞれの役割をしっかりと果たして、チームとして勝てるように頑張る。」

「自分」 「自分だ、あとに続きたい人はいるか。東は一歩前へ進んだぞ」

「試合に出られなくて悔しかったな。でもベンチにいてつてこは」

「そこに気づいたな。いろいろなことを見て学んで、それを今のプレーにいかしている。ベンチにいても学ぶことはある。どんなときでも、学ぶが、学ばないか、決めるのは」

「自分」 「自分だ、あとに続きたい人はいるか。東は一歩前へ進んだぞ」

人間力、先生は監督が出られないならこの大会に出たくなかった。でも監督は、みんなが楽しめるから丸岡RUCは大丈夫と言った。先生より監督の方が人間力があった。監督にあることは、ずっと一緒にやってきた君たちにもある。明日からのこの大会、どんなことがあっても、引きずらない、仲間を信じる。最後まであきらめない。これを忘れない。」

代わりのセンターバックは、横山が担った。「この大会でカギを握るのは横山だと田中は全員の前で指した。もう一人、期待をかけたのが右MFに入る東だった。大会前の練習試合で、攻守に目を張る進歩があった。ミーティングの終わりで、田中は語りかけた。

「東、今まで悔しい思いをしてきたか」

「してきた」

「なにが悔しかったか言えるか」

「試合に出られなくて悔しかったな。でもベンチにいてつてこは」

「そこに気づいたな。いろいろなことを見て学んで、それを今のプレーにいかしている。ベンチにいても学ぶことはある。どんなときでも、学ぶが、学ばないか、決めるのは」

「自分」 「自分だ、あとに続きたい人はいるか。東は一歩前へ進んだぞ」

1月11日、Jヴィレッジには朝から雪が舞い始めた。ピッチはみるみるうちに白くなった。なでしこカップの第1日、丸岡RUCは手連リーグで河内Sジュニア（河内・桐木）と対戦することになった。四国リーグ2位の奈良葛城との試合が、この大会最初の山場だと田中は見ていた。

横山の祖父の音がひびきかかった。控えめな声を返っていた東の母親は、東が自分のベッドを日本少年フットサルのパンフレットを持ち込んでくれたように眺めているというエピソードを披露した。それを聞いた横山の母親は、横山も帰ってきからどうも様子が違うと

「挑戦する」 「明日は何に挑戦する？」

「もう1勝する」 「やってみるか」

「やってみるか」

選手たちは一人ひとり、サッカーノートを持っている。選手たちは丸岡RUCに入った4歳から書き続けている。表紙には「日本になるためのサッカーノート。ミーティングの後、内容を思い出しながら自分の言葉でノートを書き留める。田中が「これからの目標は世界」だ。在原さんが書いてた。声をかけた。書き終えた選手から部屋へ帰っていった。

ミーティングを終えた田中は言った。

「私にとってサッカーの最終的な目的は生きる力をつけること。学校でそれを持つてさせているか。サッカーでなにができるか。と考えると、たぶんもっとやれることがあるんです」



1月11日、Jヴィレッジには朝から雪が舞い始めた。ピッチはみるみるうちに白くなった。なでしこカップの第1日、丸岡RUCは手連リーグで河内Sジュニア（河内・桐木）と対戦することになった。四国リーグ2位の奈良葛城との試合が、この大会最初の山場だと田中は見ていた。

横山の祖父の音がひびきかかった。控えめな声を返っていた東の母親は、東が自分のベッドを日本少年フットサルのパンフレットを持ち込んでくれたように眺めているというエピソードを披露した。それを聞いた横山の母親は、横山も帰ってきからどうも様子が違うと

「挑戦する」 「明日は何に挑戦する？」

「もう1勝する」 「やってみるか」

「やってみるか」

選手たちは一人ひとり、サッカーノートを持っている。選手たちは丸岡RUCに入った4歳から書き続けている。表紙には「日本になるためのサッカーノート。ミーティングの後、内容を思い出しながら自分の言葉でノートを書き留める。田中が「これからの目標は世界」だ。在原さんが書いてた。声をかけた。書き終えた選手から部屋へ帰っていった。

ミーティングを終えた田中は言った。

「私にとってサッカーの最終的な目的は生きる力をつけること。学校でそれを持つてさせているか。サッカーでなにができるか。と考えると、たぶんもっとやれることがあるんです」

「挑戦する」 「明日は何に挑戦する？」

「もう1勝する」 「やってみるか」

「やってみるか」

選手たちは一人ひとり、サッカーノートを持っている。選手たちは丸岡RUCに入った4歳から書き続けている。表紙には「日本になるためのサッカーノート。ミーティングの後、内容を思い出しながら自分の言葉でノートを書き留める。田中が「これからの目標は世界」だ。在原さんが書いてた。声をかけた。書き終えた選手から部屋へ帰っていった。

ミーティングを終えた田中は言った。

「私にとってサッカーの最終的な目的は生きる力をつけること。学校でそれを持つてさせているか。サッカーでなにができるか。と考えると、たぶんもっとやれることがあるんです」

1月5日、1次ラウンド最後の3戦目、栃木県代表と対戦した。試合は1-1で、丸岡RUCは1次ラウンドで敗退が決まった。大会最終日の1月6日は敗退したチーム同士で練習試合をしたが勝てなかった。1勝は劇的だった。しかし子供たちの成長はドラマチックには進んでいない。

丸岡RUCはワゴン車2台に分乗して福井へ帰った。次の大会は2月11日、Jヴィレッジで開かれる。8人制の第7回Jヴィレッジなでしこカップ。日本サッカー協会公認の大会ではないが、小学生の女子はここで事実上の日本一を決める。

昨年、丸岡RUCは初優勝し、今年は大史上初の2連覇を狙う。しかし今年のチームは技術的にはやや劣ると田中は見ている。全日本少年フットサルで主役になれなかった4人も8人制では主力となる。コート裏の場によれば「休育で2か3か月の選手も試合に出る。9人がそれぞれにどんな成長をするか。連覇の行方はそこにかかっている」。

田中はフットサルの岩瀬F.C.と対戦した。試合で起用した横山夢花の奮起を期待していた。しっかりとった技術がある。しかし声が出せず、プレーの判断に迷いがあ

るのが課題だった。ミーティングでも自分から発言できず、考えをうまく言葉にできないと涙があふれた。横山のサッカーノートには「自信をもつて」という父親のメッセージが書かれていた。

横山自身はフットサルで自信の土台を築いたと思っ

ていた。チームは勝つたが自分が出られなかった。南戦のあと、「試合に出ている人もベンチの人も、みんながいつもより声を出して、ひとつになって勝つたのでうれしかった」と話した。声を出すことが、ほかの選手の動きを支え、チームの役に立つことが実感できたという。同居している祖父は福井県サッカー協会の参与で、横山家の団らんにはサッカーの話題が中心、「帰ったら、勝ったことと声を出せたこと、おじいちゃんに報告した」と横山は言った。

ずっとベンチを温めていた東も成長の芽を影らまさせていた。大会中、試合に出たくなかったと「自分が試合に出ても、下手だから、すぐにボールをカットされて、相手に抜かれそう、心配、足も速いし」。小学校入学前にサッカーを始めたが、小学3年ごろから試合にあまり出られなくなったという。

しかし、本気の気持ちで聞いていくと顔つきが変わった。

「みんなは言えないけれど、なんともかたい。家で一人で練習してる。試合に勝つとうれしけれど、試合に出られないのはイヤ。この大会で学んだことを、なでしこカップで出したい」

だが、なでしこカップに臨む丸岡RUCはアクシデントが起きる。主将でセンターバックの田中監督が大会が始まる6日前、遠征先の三重県で足首を骨折したのだ。これで監督は、小学生最後の明後日をあきらめざるを得なくなった。田中は苦悶を、監督である前に父親として、娘の監督がいなくなる大会に意味がないと思っ

た。さすがにその考えは監督として思いとどまったものの、自分にとってサッカーをする意味はなんだろうかとさらに悩んだ。

会場のJヴィレッジに泊まったなでしこカップ開幕前夜の2月10日、田中は夜のミーティングでこう語った。

「先生はみんなと一緒にみんな体験をさせてきた。なにがわかったかという、先生に人間力がついているかどうか。サッカーは勝つたり負つたりする。大事なものは負けたときどうするか。逆境をどう克服するか。その力が